平成１６年度　地域活性化分科会活動記録

北海道技術士センター／地域産業研究会
地域活性化分科会

平成１６年度　地域活性化分科会活動記録

目　　次

１．	美しい海づくりプロジェクト参加者名簿	1
２．	平成１６年度　第1回地域活性化分科会　結果報告	2
３．	平成１６年度活動報告、平成17年度活動計画	5
	寿都町「美しい海づくり研究」活動報告	6
	【山グループ】活動報告	
	平成１７年度活動計画	15
	寿都ファンクラブ平成１６年度活動報告	20
	平成１７年度活動計画	
	（別冊：平成１６年度寿都町自然体験サバイバルキャンプ報告）	
４．	平成１６年度収支、平成１７年度予算	21

美しい海づくりプロジェクト　参加者名簿

	氏　名	組　　織	所　　属	電　　話	Email アドレス	グループ
1	番匠　義紘	日本データーサービス㈱	調査設計部	011-780-1115（直通）	y-banshou@ndsinc.co.jp	海
2	今井　淳一	㈱ドーコン	地質部	011-801-1590	ji573@docon.jp	川
3	伊藤　恒雄	内外エンジニアリング北海道㈱		011-271-8511（代表）	tito@naigai-eng.co.jp	都市・農
4	安田　伸生	北海道水産林務部森林環境室	道有林課道有林整備グループ	011-231-4111（28-703）	nobuo.yasuda@pref.hokkaido.jp	山
5	橋本　昭夫	札幌市衛生研究所	業務調整担当部長	011-841-9826（直通）	akio.hashimoto@city.sapporo.jp	都市・農
6	有山　忠男	㈱ライヴ環境計画		011-204-7922	ariyama@live-kk.co.jp	都市・農
7	岩崎　元彦	㈱地域計画センター		011-644-2133	iwasaki@kklpc.co.jp	都市・農
8	板垣　恒夫	技術士事務所：森林航測研究		011-667-1728	kouken-i@beige.plala.or.jp	山
9	岡田　操	㈱水エリサーチ		011-812-7724	okadax@suiko-r.co.jp	川
10	畳谷　勝雄	マットコンサルタント㈱		011-684-1667	ktatami50@ybb.ne.jp	海
11	成田　稔	東洋建設㈱	土木部長	011-281-3291	narita-minoru@toyo-const.co.jp	海
12	北越　正生	オオハシコンサルタント㈱		0134-27-3600	mk515@ohashi-net.co.jp	ファン
13	柴田　登	飛島建設㈱		011-642-3113	Noboru_Shibata@tobishima.co.jp	ファン
14	小野　孝	北海道JRシステム開発㈱		011-705-2841	t_ono@hjsd.co.jp	ファン
15	小林　幸男	東洋コンサルタント㈱		011-640-5811	kobayasi@toyocon.co.jp	ファン
16	佐藤　隆一	日本データーサービス㈱		011-780-1114	r-sato@ndsinc.co.jp	川
17	宮崎　武志	NPO地熱発電を考える会			cqw34170@nifty.com	ファン
18	二ツ川　健二	北海道土質コンサルタント㈱		011-841-1466	futatu14@cocoa.ocn.ne.jp	川
19	小町谷　信彦	北海道開発局		011-709-2311		都市・農
20	日浅　陽富	ノーステック財団	クラスター推進部　次長	011-708-6526	hiasa@noastec.jp	都市・農
21	須川　清一	㈱アルファ技研		011-662-1201	sugawa@alpha-giken.co.jp	
22	渡辺　　亮	㈱シビテック	代表取締役社長	011-816-3001	r.watanabe@civitec.co.jp	
	計					

平成１６年度　第１回地域活性化分科会　結果報告

日　時：　平成１６年6月１０日、１８時００分～２０時００分
場　所：　ドーコン北４条会議室（四階）
出席者：　畳谷　勝雄、番匠　義紘、佐藤　隆一、板垣　恒夫、安田　伸生、有山　忠男、
　　伊藤　恒雄、今井　淳一、岩崎　元彦、須川　清一、北越　正生、小林　幸男、
　　柴田　登　（１３名）　　岡田　操（懇親会のみ参加）

平成１６年度「美しい海づくり研究プロジェクト（美海寿）」各グループの研究テーマの活動方針・行動計画

１．海グループ　（畳谷　勝雄、番匠　義紘）

★コンセプト

「綺麗な海づくりによるイメージアップで寿都町の付加価値を高める」

原点に立ち返り、昨年度の調査結果を踏まえ、あくまでも綺麗な海、海岸づくりにこだわり、寿都町の皆さんの協力を得て行う行動とする。綺麗な海が寿都町のイメージアップにつながり、活性化につながることを理解しあう。

★具体的施策と行動計画

(1)「海岸遊歩道の建設：政泊海岸」

民有地が多いプライベートビーチ的要素を持つ政泊海岸は、キャンパーの投棄ゴミと漁業者が沖合いで投棄するゴミの漂着で、海岸ゴミが目立つ。

徹底的に綺麗にすることで利用者のゴミ投棄意識を変革することを目的として、海岸付近の遊歩道を、町民参加の手づくりで建設する。具体的には、海岸などから拾い集めた石に名前を記入してもらい、この石を利用した遊歩道を建設する。

このための施策方針と活動計画を寿都町の人々と共に協議する。

(2)「海岸美化：寿都漁港周辺海岸」

水産加工場が多い寿都漁港周辺の海岸は、加工場からと思えるウニ殻やコンブ残滓などのゴミが加工場裏の海岸に投棄されている。

漁港が新しくなり、色んな人達が訪れるようになれば、周辺ゴミが目に付き不快感を与えるであろう。このため、不法投棄の禁止と海岸清掃の実施を求める。

このための活動計画を寿都町の人々と共に協議する。

(3)「白砂青松の浜づくり：浜中海岸」

浜中生活環境保安林が位置する海岸は、緩やかな曲線を描く海岸線の砂浜であり、また背後の生活環境保安林の緑を借景とした白砂青松の海岸でもあり、寿都町の景観を特徴づけるロケーションである。

砂浜の維持、特徴的景観づくり、及び漁業廃棄物の有効利用を目的として、盛んに行なわれているホタテ漁業から排出されるホタテ貝殻を粉砕した人工砂で海岸を造成し、白砂青松の海岸を造りだすこととする。

このための施策方針と活動計画を寿都町の人々と共に協議する。

★具体的施策実現のための誘導施策

(1)「ふるさとの提供：未利用家屋でのホームステイ」

綺麗な海づくりを実行し活性化に結び付けるには、外から寿都町へ来る人達に寿都町の美しさを実感してもらうことが重要となる。つまり、外からの刺激と、美しい海づくりに努力する刺激（地元の勇気）で、寿都町の活性化が生まれることである。

このためには、滞在して寿都を実感してもらうことが必要と考えられることから、出費が少なくて済み、寿都町の人情と自然の豊かさを実感できるシステムが必要である。

高齢化社会を迎えた現在、老夫婦だけの家や町外流出による空家があることに着目し、これらの所有者に理解・協力していただき、２泊～７泊程度の長期滞在型ホームステイを実施し、ウニ採り、パークゴルフ、釣りなどのレジャーを低価格や特典を与えて行なってもらう。また、美しい有海づくりプログラムにも参加してもらうこととする。

これらの都市住民との交流を、ホームステイでの「ふるさと提供」として実施する。

尚、「ふるさと提供」は、漁家だけでなく農家や商店でも可能である。

２．森・川グループ　（佐藤　隆一、板垣　恒夫、安田　伸生、岡田　操）

★コンセプト

「海岸林・河畔林・法人の森の保全と利用によるイメージアップで活性化を図る」

昨年度の調査結果を踏まえ、朱太川河畔林や海岸林の大切さを寿都町の人々と共有し、森の保全と利用で活性化につなげることとする。また、法人の森を「寿都町民の森」と位置付け、環境教育の場やレクリエーションの場とする。

そして、法人の森から浜中生活環境保安林までをつないだ遊歩道整備や、海岸道路の法面を植林した緑の回廊を作ることにより、イメージアップを図り活性化につながることを理解しあう。

★具体的な行動計画

(1)「法人の森の現地調査の実施」

法人の森周辺の平成 13年度空中写真を入手した。これを基に、８月のお盆後に現地調査を実施する。

法人の森は寿都町での貴重なブナ林でもあり、蛯沢様の協力を得ながら、「寿都町民の森」と位置付け、環境教育の場やレクリエーションの場ととらえたい。

法人の森～浜中生活環境保安林までをつないだ遊歩道整備を検討する。この緑の遊歩道を散策しながら、環境教育の場やレクリエーションの場として町民や旅行者に体験してもらい寿都町のイメージアップにつなげる。

(2)「朱太川河畔林、再生林、浜中生活環境保安林の継続的な観察会の実施」

寿都町の特徴的景観である朱太川河畔林・再生林・浜中生活環境保安林の変遷を、寿都町の人々の協力をえながら注意深く継続的に観察することで、林の重要性・必要性のコンセンサスを得ることができる。

このため、寿都町の人々の参加を求めた「観察会」を今後継続的に行うこととする。

また、海岸林の造成の歴史などについても「観察会」を通じて勉強する。

「※.要望：国有林入林許可証や宿泊の手配の協力をいただきたい。」

３．都市・農地グループ　（有山　忠男、伊藤　恒雄、今井　淳一、岩崎　元彦、須川　清一）

★コンセプト

「寿都町の特色を活かした景観づくりで活性化を図る」

昨年度は多くの景観写真を撮影した。

寿都町の漁村景観や都市景観には、海岸の強風に備えた「コールタールで真黒な壁の家」や「防風板塀」、「路地の突当りの寺院」などで特色ある景観がある。

また、寿都町の農業は、砂地の農業に特色があり、農業景観は、作付作物や防風保安林などの環境対策景観との関係で特色が生まれる。

これらの景観は、地域の人が気付いていない貴重で有益な景観であることから、もう一度寿都町の人々の協力を得て景観の発掘調査を行ない、景観の特色と価値を共有し、活性化のための利用を協議する。

★具体的な行動計画

(1)「景観マップの作成」

特色ある寿都町の景観ポイントを景観マップに落とし、利用策や改善策を導き出す。

(2)「景観面からの作物の見直し作業」

砂地農業の作付作物と景観との関係や、防風保安林の景観などから、寿都町として特色ある農業景観と農作物の見直しのための改善策を、町民の人達の協力を得て実施する。

(3)「景観面を配慮した実験農園の実施」

寿都町の特色ある砂地作物と景観との関係を検討するため、実際に景観を考慮した農作物を栽培した実験農園を、町民の人達の協力を得て行なってみたい。

４．寿都ファンクラブ　（北越　正生、小林　幸男、柴田　登）

★具体的な行動計画

(1)「平成１６年度　寿都町自然体験サバイバルキャンプの実施」

寿都町教育委員会主催の上記事業に､寿都ファンクラブとＲＳ自然教育分科会の共催で、２回目の出前講義として協力する。

８月６日～８日の２泊３日で、小学５年生～中学生の３０名の参加者を募集し、テント生活、地引網体験、川遊び、キャンプファイヤー、ホタル探し、レクリエーションなどを行なう。

実施に協力できる、研究会メンバーの参加を求めます。

詳細は、会議で配布しました開催要領を参照ください。

（都合による分科会欠席者）

成田　稔、二ツ川　健二、小町谷　信彦、橋本　昭夫、日浅　陽富、小野　孝、

宮崎　武志、渡辺　？　（８名）

以　上

（文責）2004.06.12、畳谷 勝雄

美しい海づくり研究「美海寿（muse）プロジェクト」
―　平成 16 年度活動報告、平成 17 年度活動計画　―

2005.3.4

文責：畳谷 勝雄

１．平成 16 年度 活動報告

平成 15 年度「美しい海づくり研究」現地調査結果と課題の抽出から、平成 16 年度は各グループの活動計画を企画しました。

しかし、平成 16 年度は、技術士全国大会の成功が重要課題となり、メンバーの中には他の研究会との重複者が多いことから、技術士全国大会対応で多忙となり、活動計画どおりに実施できなかった。

当初の活動計画どおりに実行されましたのは、「山グループ」の板垣恒雄様、安田伸生様の両名による、平成 16 年 8 月 19 日の概況調査およびとりまとめ報告だけでした。

このため、平成 16 年度「美海寿プロジェクト」の活動報告は、「山グループ」の１６年度調査報告で代用いたします。

また、技術士全国大会では、美海寿プロジェクトを岩崎元彦パネラーに報告していただきました。

なお、平成 15 年度の活動記録と成果品一式を、PDF ファイルで CD 化を行ない、寿都町役場、各グループの代表者、及び事務局分として作成しました。

活動名称	日時・場所	活動内容
第１回 幹事会	5 月 12 日（水） 18：00～20：00 ドーコン分室	1.「美海寿」の今年の活動予定 2.「寿都ファンクラブ」の今年の活動予定 3.全国大会の準備など 4.定時・定例会議、連絡体制の再確認
第１回 地域活性化分科会	6 月 10 日（木） 18：00～20：00 ドーコン分室	1.「美海寿」の今年の活動予定 2.「寿都ファンクラブ」の今年の活動予定 3.全国大会の準備など
山グループ 概況調査	8 月 19 日～20 日	◆土地分類図（林相図）作成のための前段調査 地域：月越峠、樽岸林道、浜中生活環境保全林
第２回 幹事会	10 月 28 日（木） 17：30～20：00 ドーコン分室	1.寿都町への今後の対応 2.現地調査と課題（テーマ） 3.寿都町民との接点の持ち方
第２回 地域活性化分科会	平成１７年２月２２日(火)　午後６時から	1.平成 16 年度活動総括 全体、会計報告、美しい海づくり研究 寿都ファンクラブ 2.平成 17 年度活動計画 全体、寿都町との連携について 美しい海づくり研究、寿都ファンクラブ 予算計画

２．寿都町・美しい海作り研究　平成１６年度活動報告

2-1【山グループ】調査計画

2004.6.10

板垣恒夫・安田伸生

1）１５年度の調査から得られた問題点

(1)　朱太川（湯の浜大橋）：大橋上流右岸には、朱太川河畔林再生事業（住民参加による森づくり）により、生態学的混播法（北海道工業大学岡村教授提唱の自然林再生の方法）の考え方に基づいて地元の人々で植栽した（と思われる？）箇所があります。地元の人を中心として、植栽した樹木の継続観測や更なる自然林造成の取り組みができればいいと考えられます（地元・町への期待）。

(2)　浜中環境保全林：保全林内の案内板は、位置図のみで、いわゆる「解説」が一切ないのが残念である（地元・町への期待）。後志支庁や町などとの共同作業で案内板の充実を図ることができればいいと考えられる。

(3)　樽岸小川河畔林：法人の森を「町民の森」として考えた場合、途中景観（散策場所）からもこの河畔林は重要な位置を占めることになります。

(4)　法人の森：将来、樽岸小川河畔林と連動し「町民の森」として考えたい。理由は、①．寿都町で唯一のブナ林があること（月越山脈のブナ林）、②．林道が整備されている　こと、③．樹種・下層植生が豊富で教育の場としてふさわしいこと、④．運動面からは「汗を流す」ことができることなどです。

(5)　海岸線の森林について：　横澗から実谷、有戸にかけての国道２２９号線沿いの森林状況をみると、国道や海岸沿い民家の保全のため治山工事（山腹工事）を実施し、ヤナギ、ハンノキ、ギンドロなどの植栽の結果一定の森林状態となっているところと、道路法面などで、草本緑化にとどまっているところがあります。

強風や塩害といった厳しい条件下ではあるが、海岸線の海と一体となった景観を創り出す視点から、海岸線の森林造成について検討してみる価値があります。

- 課題：この調査で寿都町の自然がほんの少し見えてきました。山グループの課題は、
  ①　都町の森林自然の概況を把握しそれに基づき、
  ②　「町民の森」構想を具体化し、
  ③　対外的に寿都町の「これまで知られていない場面」を明らかにして、町のレベルアップをはかることにあります。

　また、磯谷地区の自然、特に小河川をとりまく森林状況を調べ、この森林自然が寿都町の美しい海にどのように貢献しているのか？？を、明らかにすることです。

　更に、浜中生活環境保全林、朱太川河畔林造成、朱太川を繋ぎ、浜中エリアを中心とした「海・川・森」そしてパークゴルフや温泉といった要素も加えた、地元の人々による継続的な観察会や植樹活動などのイベントを仕掛けられないか、検討することも考えてみたい。（この場合は、山グループのみではなく全てのグループの共同作業となる。）

２）１６年度調査計画

１５年度の問題点と課題から以下を検討したい。

(１)　「法人の森」および「月越峠」の森林概況調査：平成１３年の空中写真は入手していますので、1/25,000 地形図に林相を展開したい（林相図の作成）。７月～９月を目処に現地調査（概況調査程度）。

※調査に際しての入林許可：国有林への入林許可得るにはどうしたらいいのか？

参考：今後、国有林(法人の森)の森林調査簿・および森林計画図（1/5,000）が必要となる（林野の場合は、森林調査簿１枚５００円、計画図１枚 2,500 の経費がかかる。但し、大学との共同研究とか、文化活動の一環として必要な場合は、無料となる。）。民有林（町有林等）の森林計画図（1/5,000）は北海道水産林務部森林計画課から入手できる。

(２)　海岸線の森林造成についての検討：海岸林の森林は強風や塩害といった厳しい条件下にあるが、海岸線の海と一体となった景観を創り出す視点から、森林造成について検討したい。

(３)　浜中生活環境保全林等を利用したイベント活動の実施：浜中生活環境保全林等を利用して、地元の人々による継続的な観察会や植樹活動などのイベントの実施を、山グループだけでなく、活性化分科会全体と町の共同での実施方向を検討したい。

●山グループに参加しませんか：以上の計画ですが、できれば山グループに参加して、(１)～(３)を一緒にやってみませんか。

以上

２-２【山グループ】活動報告

平成１７年１月６日
板垣恒夫・安田伸生

1、はじめに

平成１６年度は､平成１５年度の調査経過から得られた ①　寿都町の森林自然の概況を把握し、②「町民の森」構想を具体化し、③対外的に寿都町のこれまで知られていない場面を明らかにし、また、④磯谷地区の自然、特に小河川をとりまく森林状況を調べ、⑤この森林自然が寿都町の美しい海にどのように貢献しているのかを明らかにする、といった、5 つの課題に基づき、**1)**「法人の森」および「月越峠」の森林概況調査をおこない、**2)** 海岸線の森林造成について検討し、**3)** 浜中生活環境保全林の一層の利用について調べることとした。

しかし、諸般の事情から調査計画の全般にわたって実施することができなかった。以下は今年度おこなわれた項目についての報告である。

2、「法人の森」および「月越峠」の森林概況調査

2―1：調査方法

本調査は、空中写真による土地分類図（林相図）作成のための前段調査であるが、この調査結果を基にして、空中写真判読を行い、1/5,000 地形図に森林内容を展開し土地分類図を作成する。なお、林相判読の基準は表―1 のとおりである。

概況調査は平成１６年８月１９日に実施した｡調査内容は､それぞれの調査箇所について、地形図と空中写真への刺針、野帳への記載（森林の特徴や植生等）、地上写真撮影、その他である（調査位置図は省略）。

2―2：調査結果

2―2-1：調査地の概況

1）月越峠；「タケノコ採取区域」入り口

写真：№1～№5（風車付近の風景・防風堆雪柵を含む）

林相：ダケカンバ林（林相内容は林相判読の基準によりＩＬ密H2 と判定・以下同断）

樹高：14m（平均）/5m～16m（範囲）

直径：16ｃｍ（平均）/10ｃｍ～28ｃｍ（範囲）

下層植生：チシマザサ　2.0m（平均）/1.5m～2.5m（範囲）

月越峠のダケカンバ林（ＩＬ密H2）

2）-1 樽岸林道；民有地（法人の森に向かって右側・河川側）

写真：№6～№7（林道景観と林道沿い牧草地）

林相：広葉樹林（林相内容はⅢＬ密H2）

シラカンバ･ダケカンバ･ミズナラ･ヤナギ類･イタヤカエデ･タラノキ･サビタ･クリ・ハリギリ

下層植生：クマイザサ(ほぼ 100%)、林道沿いの比較的明るいところにススキ・ウド・オオブキ・ワラビ・ハンゴンソウ・ヨモギ・エゾゴマナ等がみられる。

樹高：14m/5m～16m

直径：16ｃｍ/6ｃｍ～26ｃｍ

ササ丈：2.0m/1.5m～2.5m

2）-2 樽岸林道；民有地（法人の森に向かって左側・牧草地側）

写真：№6～№7（林道景観と林道沿い牧草地）

林相：広葉樹林（林相内容はⅢＬ密H1）

下層植生：クマイザサ(高さ 1.5m～2.0m)、その他草本

樹高：7m/3m～10m

直径：10ｃｍ/6ｃｍ～18ｃｍ

3）樽岸林道；国有林入り口

写真：№8～№10（林道景観と境界のミズナラ）

林相：広葉樹林（林相内容はⅢＬ密H3）

オオイタドリ優占の未立木地とカンバ類（シラカンバ･ダケカンバ「22m」混生）が林道右側に分布し、林道沿いにはケヤマハンノキ（10m）が列状に生立している。

下層植生：チシマザサ(林内ほぼ 100%・2.0m/1.5m～2.5m)、開放地に大型草本のオオ

イタドリ・ウド・オオブキ・ヨモギ等がみられる。
樹高：17m/14m～21m
境界のミズナラ：樹高 20m、胸高直径 1m

4）樽岸林道；国有林のゲートを越えて
写真：№11　（林道沿いのトドマツ人工林密林・林道山側）・北東斜面
樹高：18m/16m～20m
直径：28ｃｍ/20ｃｍ～36ｃｍ

5）樽岸林道；国有林内
写真：№12　（林道沿いのカラマツ人工林密林・林道山側）・北東斜面
樹高：19m/14m～23m
直径：24ｃｍ/18ｃｍ～28ｃｍ

6）-1　樽岸林道；法人の森・ブナを主とする天然林
ブナは北斜面及び北西斜面に多く、ここは中～急傾斜地（３０度）である。
写真：№13～№26（周辺景観とブナ天然林・林床植生）
林相：広葉樹林（林相内容はⅢＬ密Ｈ3）
ブナ(70%)･ミズナラ･イタヤカエデ･ホウノキ・カンバ類
中層（ハウチワカエデ・ホウノキ・イタヤカエデ）
下層（オオカメノキ・ブナ・ハウチワカエデ他）
下層植生：チシマザサ(5%)・シキミ・ツタウルシ・イヌツゲ・ユズリハ他
樹高：22m/16m～25m（上層木）
直径：30ｃｍ/20ｃｍ～60ｃｍ（上層木）

法人の森：ブナ天然林（北西斜面・急傾斜地）

6）-2　樽岸林道；法人の森・ブナの少ない天然林

ここは北東向き中傾斜地・林道側に位置する。

写真：№13～№26（周辺景観とブナ天然林・林床植生）

林相：広葉樹林（林相内容はⅢＬ密Ｈ3）

中～大径木林・ミズナラ主体、ブナ(20%)･ミズナラ（50%）･シナノキ･センノキ・ホウノキ・カンバ類

中層（ハウチワカエデ・シナノキ・イタヤカエデ・ハウチワカエデ）

下層（オオカメノキ他）

下層植生：チシマザサ(5%)・シキミ・ツタウルシ・イヌツゲ・ユズリハ他

樹高：24m/18m～26m（上層木）

直径：36ｃｍ/28ｃｍ～80ｃｍ（上層木）

7）樽岸林道：緑のトンネル（民有地・法人の森に向かって左右景観）

場所は 2）より 100m程市街側である。

写真：デジタル写真２枚

林相：広葉樹林（ⅢＬ密Ｈ2）

樹高：14m/10m～16m

直径：10ｃｍ/6ｃｍ～18ｃｍ

下層植生：クマイザサ　1.5m～2.0m

表―1 林相判読の基準

区　分	林　　分　　の　　内　　容			
樹冠層	単層林的林分（Ⅰ）	二段林的林分（Ⅱ）	複層林的林分（Ⅲ）	
樹種群	針葉樹林（N）：全樹冠に対する針葉樹の樹冠占領面積７５％以上の林分	針広混交林（M）：全樹冠に対する針葉樹の樹冠占領面積２５～７５％未満の林分	広葉樹林（L）：全樹冠に対する針葉樹の樹冠占領面積２５％未満の林分	
樹冠疎密度級	密林（密）：林地面積に対する全樹冠占領面積７０％以上の林分	中林（中）：林地面積に対する全樹冠占領面積４０～７０％未満の林分	疎林（疎）：林地面積に対する全樹冠占領面積１０～４０％未満の林分	散生林（散）：林地面積に対する全樹冠占領面積５％～１０％未満の林分
上層木平均樹高級	H3：上層木平均樹高１７m以上の林分	H2：上層木平均樹高９～１７m未満の林分	H1：上層木平均樹高９m未満の林分	
その他	無立木地（樹冠疎密度級５％未満の林地）・造林地（樹種別）・崩壊地など			

3、浜中生活環境保全林の概況調査

３－１：調査方法

浜中地区の海岸林の概況については、既存の各種資料や航空写真の収集、判読と現地調査によって行った。既存資料としては、１９４７年撮影の航空写真、北海道立林業試験場報告（昭和４９年１０月、第１２号)、浜中地区生活環境保全林整備事業全体計画書（１９９９年度委託業務報告書、後志支庁）によって調査した。

３－２：浜中海岸林の歴史

この海岸林は、元々国有林であったが、１９９９年（平成１１年）に寿都町が国から購入し町有林となっている。また、１９９９年から２００２年には、北海道後志支庁で、生活環境保全林整備事業が実施され、管理歩道（遊歩道）や案内板などの整備、森林の整備が行われ、町民の憩いの場（＝浜中生活環境保全林）として整備されている。現在、保全林の管理は寿都町が行っている。なお、この海岸林は、防風と保健の兼種保安林に指定されている。

えりも町襟裳岬や江差町砂坂などの北海道の海岸林は、国有林や北海道が人工的に植栽し

て造成したものが有名である。浜中海岸林は、１８９７年に防風保安林（国有林）に指定されており、現存する樹種はカシワ、イタヤカエデなどの本来この付近に成立する広葉樹林となっていることなどから、全面的に植えられたものではない可能性がある。国有林の資料（森林調査簿）には、クロマツ人工林の記載はあるが広葉樹については不明である。

１９７４年に北海道立林業試験場で調査した報告（伊藤重右エ門ほか　後志、檜山および石狩地方における防災林造成法の研究　北海道林業試験場報告第１２号　昭和４９年１０月）によると、「浜中海岸林は朱太川左岸に発達する小砂丘に分布する天然生林とそれに連続する人工林で、天然生林は汀線から９０ｍの地点から３０ｍの幅を持つ風衝林となっている。風上林縁部は地面に接するほど低いカシワ、イタヤカエデなどが密に短覆し、シナノキ、ヤマグワ、ハリギリ、ハルニレなどと混交して樹高を４～５ｍ階まで高めている。」としている。

また、１９４７年に撮影された航空写真を見ると、浜中海岸林一帯には、筋状に刈り払われた痕跡が見え、何らかの人手が加わった（植栽のための地拵え？）とも見えるが、記録はなく定かではない。

クロマツ、ギンドロ、ニセアカシアの人工林がある。ギンドロは昭和４２年頃に植えられ、クロマツは昭和２６年から２７年にかけて植えられた記録があるが、ニセアカシアについての植栽年度は不明である。

３－３：現況

浜中海岸林は全体面積２９．６haで、天然生林２５．８ha（８７％）、人工林３．８ha（１３％）となっている。

樹種構成は、天然生林：カシワ２０ha（６９％）、ミズナラ５ha（１６％）、イタヤカエデ、シナノキ、ヤナギほか、人工林：クロマツ０．５ha（２％）、ギンドロ３ha（１０％）、ニセアカシア０．３ha（１％）となっている。

また、平成１３年に、生活環境保全林整備事業で、保全林入り口付近（パークゴルフ場向かい付近）に、イタヤカエデ、シラカンバ、シナノキ、ハルニレ、アズキナシ、ナナカマド、カシワ、ヤマグワ、トドマツが植栽されている。

３－３　サバイバルキャンプ

平成１６年８月６日から８日に寿都町教育委員会主催の「サバイバルキャンプ」２日目のメニューとして「海岸林を調べてみよう」を企画し、キャンプ参加者（小・中学生）に海岸林の現況を説明の上散策してもらった。内容、感想は別紙参照。

4、おわりに

本年度は、現況調査を中心に実施し、ある程度の成果を得られたが、町民の森構想に繋がる土地分類図の作成、海岸林の今後のあり方や生活環境保全林の一層の活用方策等についての検討まではできなかった。

次年度以降は、残された調査や今後の方策の検討などを行っていきたいと考えている。

〔資料調整について〕

本調査地は、島牧村、寿都町、黒松内町のそれぞれ市町村にまたがり、また、管理では国有林、民有林にわたっています。このため、1/5,000 地形図（基本図・森林図）の入手には北海道森林管理局、北海道水産林務部の担当者を煩わせました。また、入手に際して種々便宜をはかってくださいました寿都町と地域産業研究会・地域活性化分科会の皆様に感謝します。

地形図は、全部で１０面（第二原図）にわたり、板垣が保管しています。必要な方は板垣までお知らせ下さい。

以上

（別紙）　**海岸林を調べてみよう（２日目午後）**

安田　伸生（２００４．１２）

１　目　的

森林は山にあるもの、海岸＝砂浜や磯のイメージ、という固定観念があるのではないでしょうか？「白砂青松」という言葉があります。白い砂浜と青い松林のある美しい海岸のことをいう言葉です。

寿都にも「白砂青松」の海岸があります。浜中海岸です。浜中海岸林を散策し、どんな木があるのか、この森林の生い立ちは？、などなど・・・「ふるさと再発見」してみよう！

２　用意したもの

・　現況図、樹木図鑑（写）（教育委員会で立派な資料を作成してもらった）
・　測高器、距離測定テープ

３　実施経過

（１）川実験から海岸実験（視察）へ移動する途中、浜中海岸林（生活環境保全林）の中を散策しながら、森林の様子を観察した。
（２）その際、カシワ、イタヤなど目に付いた樹木の名前あてをする。あわせて、海岸林の生い立ち、役割（この森林が農地、道路、集落などを強風や飛砂から守っていることなど）などについて説明した。
（３）測高器を使って木の高さを測ってみた。器具の使い方と共に数学の原理（三角関数、相似形）の応用であることも説明した。
（４）展望台（生活環境保全林の施設）に上ってみた。（散策中にはぐれて海岸へ直行したグループもあった。）

４　感想

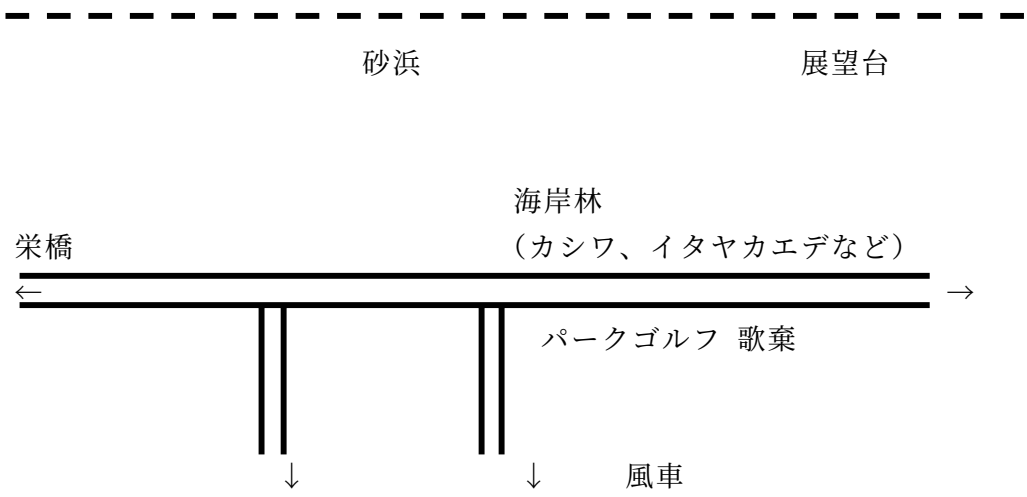
（１）海岸への移動途中に設定したこともあり、森林観察、散策が主体となったため、子供達にとっては、退屈な時間となったかもしれない。「早く海へ行きたい」という気持ちがあったと思われる。散策の列が途中で分かれてしまったことなど、準備不足を否定できない。
（２）少なくとも海岸にカシワを主体とした森林があることだけでも、子供達の頭の片隅に残っていてくれれば「成果」ありと思いたい。
（３）実際に器具を使って木の高さを測ってみたことは、試みとしてはよかったと考えるが、その原理を理解させる工夫や、クイズ的要素を取り入れるなどして興味を持たせる工夫が必要だったと反省している。
（４）更に、前夜の航空写真判読との関連をより一層持たせるともっと興味深いものになったと思われる。
（５）現地での樹種当てクイズや高さ当てクイズの実施、航空写真と実際の森林との見比べなどを取り入れるとより興味深いものになったと思われる。

別紙（サバイバルキャンプ資料）**海岸林を調べてみよう（寿都町浜中海岸林）**

海岸林は、海からの強い風や塩の害から畑や道路などを守っている！

明治時代から
保護しながら
育ててきた森林だ！

～～～～～日本海～～～～～



カシワ
の葉

海岸林と遊歩道　　カシワの幼樹

・浜中地区生活環境保全林
　＝　海辺の森　＋　健康の森　＋　集いの森　＋　散策の森　＋　水辺の森
・明治３０年（１８９７年）防風保安林に指定（国有林）
　（営林署や地元の人々により保護され育てられた）
・平成１１年～１４年（１９９９年～２００２年）生活環境保全林整備事業実施
　（国有保安林を寿都町で購入、後志支庁で事業実施）
・浜中の海岸林で見られる主な樹種
　カシワ、イタヤカエデ、シナノキ、ヤマグワ、ハリギリ、ヤナギ、
　クロマツ、ギンドロ、ニセアカシア（クロマツ、ギンドロ、ニセアカシアは植えたもの）

３．平成 17 年度 活動計画

１．寿都町への対応

「美海寿プロジェクト」は、片岡町長の北海道・東北・北陸３ブロック大会での発表や技術技術士全国大会でも発表したことから、我々の寿都側窓口である商工観光課：東野課長を接点に活動を継続する。

２．平成 17 年度活動計画

【海グループ】

★コンセプト

：『綺麗な海づくりによるイメージアップで寿都町の付加価値を高める』

原点に立ち返り、昨年度の調査結果を踏まえ、あくまでも綺麗な海、海岸づくりにこだわり、寿都町の皆さんの協力を得て行う行動とする。綺麗な海が寿都町のイメージアップにつながり、活性化につながることを理解しあう。

★具体的施策と行動計画

(1)「海岸遊歩道の建設：政泊海岸」

民有地が多いプライベートビーチ的要素を持つ政泊海岸は、キャンパーの投棄ゴミと漁業者が沖合いで投棄するゴミの漂着で、海岸ゴミが目立つ。

徹底的に綺麗にすることで利用者のゴミ投棄意識を変革することを目的として、海岸付近の遊歩道を、町民参加の手づくりで建設する。具体的には、海岸などから拾い集めた石に名前を記入してもらい、この石を利用した遊歩道を建設する。

このための施策方針と活動計画を寿都町の人々と共に協議する。

(2)「海岸美化：寿都漁港周辺海岸」

水産加工場が多い寿都漁港周辺の海岸は、加工場からと思えるウニ殻やコンブ残滓などのゴミが加工場裏の海岸に投棄されている。

漁港が新しくなり、色んな人達が訪れるようになれば、周辺ゴミが目に付き不快感を与えるであろう。このため、不法投棄の禁止と海岸清掃の実施を求める。

このための活動計画を寿都町の人々と共に協議する。

(3)「白砂青松の浜づくり：浜中海岸」

浜中生活環境保安林が位置する海岸は、緩やかな曲線を描く海岸線の砂浜であり、また背後の生活環境保安林の緑を借景とした白砂青松の海岸でもあり、寿都町の景観を特徴づけるロケーションである。

砂浜の維持、特徴的景観づくり、及び漁業廃棄物の有効利用を目的として、盛んに行なわれているホタテ漁業から排出されるホタテ貝殻を粉砕した人工砂で海岸を造成し、白砂青松の海岸を造りだすこととする。

このための施策方針と活動計画を寿都町の人々と共に協議する。

★具体的施策実現のための誘導施策

(1)「ふるさとの提供：未利用家屋でのホームステイ」

綺麗な海づくりを実行し活性化に結び付けるには、外から寿都町へ来る人達に寿都町の美しさを実感してもらうことが重要となる。つまり、外からの刺激と、美しい海づくりに努力する刺激（地元の勇気）で、寿都町の活性化が生まれることである。

このためには、滞在して寿都を実感してもらうことが必要と考えられることから、出費が少なくて済み、寿都町の人情と自然の豊かさを実感できるシステムが必要である。

高齢化社会を迎えた現在、老夫婦だけの家や町外流出による空家があることに着目し、これらの所有者に理解・協力していただき、２泊～７泊程度の長期滞在型ホームステイを実施し、ウニ採り、パークゴルフ、釣りなどのレジャーを低価格や特典を与えて行なってもらう。また、美しい有海づくりプログラムにも参加してもらうこととする。

これらの都市住民との交流を、ホームステイでの「ふるさと提供」として実施する。尚、「ふるさと提供」は、漁家だけでなく農家や商店でも可能である。

【川グループ】

★コンセプト

：『町民における河川の位置付け・安全な利用でのイメージアップで活性化を図る』

15 年度の現地踏査から見受けられた河川の特性を鑑みて、町民における河川の位置付け・安全な利用などについて提案する。

★具体的施策と行動計画

(1)「拠点地区」

現況の朱太川は周辺から堤防・河畔林によって隔絶され、近づきがたく、利用しにくい状況にあるように見える。河川へのアクセスを考慮した拠点を造ることにより、河川の多面的な利用がより推進されることになると考えられる。

拠点地区として最もふさわしいのは「湯の浜大橋」周辺ではないかと考えられる。ここは既に「浜中地区生活環境保全林」の整備が進み、いくつもの施設が整っている。これに隣接する大橋周辺を拠点とすることにより、両者の利用が相乗的に進み、また効率的な施設整備を計ることが期待できる。

(2)「自然教育の場としての利用」

大橋が横切っている朱太川の河川敷には丁度旧河道が残されており、湿生植物が生い茂る湿原状態になっている。踏査時にはアオサギが採餌しておりアマツバメが飛び交っていた。

ここに木道等の観察路を設け、子供たちへの自然教育の場として整備する。旧河道の中には深みがある事も推定され、また効果的な教育のためのシナリオを作った上でのルート選びが必要であろう。

(3)「視点場としての利用」

先にも述べたように朱太川には全体を見渡せるような視点場が少ない。そのような場が少ないことは町民の川に親しむ意識に少なからず影響を与えているように思われる。視点場があれば朱太川を見るばかりでなく、そこに生える美しいエゾノキヌヤナギの河畔林を楽しむことができる。また後述する水面利用が増えれば川を見渡せる場が必要となってくる。

湯の浜大橋は中央部が高くなっており、より遠くを見渡す場として適しているが、その形状ゆえ通行車両にとっては見通しが悪く、また現状では車道だけであるため安心して景観を楽しむこともできない。大橋の上に歩道と、できればテラスを設けられれば、視点場としての利用が可能である。

(4)「水面の利用」

朱太川の下流は程々の水深と、ゆったりした流れ、静かな水面が揃っており、水遊びやカヌー･ボートなどの利用に最適である。しかし現状では河口周辺を除いて河岸に近づくことすら困難である。

河口から 1.5 キロ周辺の右岸側には副水路が現河道と分離する部分があり、大橋からここまで 500 メートルほどのアクセス道路と傾斜路を整備することによりカヌー･ボートの利用が可能になる。

更に流域連携をとって黒松内町からのカヌー下りコースを設定すれば、ここを終着駅として位置付けられる。

◆川以外の個人的な提案(森グループ・ファンクラブの皆様の御意見を参考に)

1). 道の駅の創設

・国道 229 号沿いに道の駅を整備する。駐車スペース・道路状況などを考慮しなければならないでしょうが、連携施設としては「佐藤家」、「ウィズコム」など。

・ここで魚介類・長芋などを販売する。

・「寿都温泉ゆべつのゆ」の案内と誘導を図る。

2). 磯谷牧場林道の展望台

・現在工事中の磯谷林道が完成した時点で頂上部(標高 314m 地点)に展望台を設ける。林道には「サンセット・スカイライン」なるネーミングをする。

・利用状況によっては季節的に売店を設ける。

・「この林道で夕陽を見た 2 人は必ず結ばれる」との噂を流す。

【森グループ】

★コンセプト

：「海岸林・河畔林・法人の森の保全と利用によるイメージアップで活性化を図る」

これまでの調査結果を踏まえ、朱太川河畔林や海岸林の大切さを寿都町の人々と共有し、森の保全と利用で活性化につなげることとする。また、法人の森を「寿都町民の森」と位置付け、環境教育の場やレクリエーションの場とする。

そして、法人の森から浜中生活環境保安林までをつないだ遊歩道整備や、海岸道路の法面を植林した緑の回廊を作ることにより、イメージアップを図り活性化につながることを理解しあう。

★具体的な行動計画

(1)「法人の森」「浜中海岸林」とその周辺の現地調査の実施」

法人の森周辺（国有林・民有林）の概況調査については平成 16 年度に実施し、その内容は 16 年度調査報告書のとおりである。

17 年度は、以下に示す内容を実施する。

①空中写真判読からの土地分類図（林相図）作成

②資料調査（国有林・民有林）、土地分類図の現地確認

③植生調査

④浜中海岸林の現地調査

⑤これまでの成果とりまとめ

上記の調査を実施し、今後の在り方および生活環境保全林の一層の活用について検討する。

(2)「朱太川河畔林の調査と観察会の実施」

山グループとして、上記調査に余裕があれば、以下の考えの中で協力していきたい。寿都町の景観は、月越ブナの森～朱太川河畔林～浜中海岸林と一体感の中で考察されるべきであり、これは「寿都の美しい海づくり」のために非常に大切なことではないだろうか。

●要望

国有林への入林に際しては、これまで寿都町（蛯沢様・東野様）の協力で実施することができました。

17 年度は、国有林での森林簿冊の閲覧、寿都町での町史等の閲覧とコピーなど協力をお願いしたい。また、宿泊して調査を実施するためにも簡易宿泊所の斡旋を期待したい。

【都市・農地グループ】

★コンセプト

：「寿都町の特色を活かした景観づくりで活性化を図る」

15 年度は多くの景観写真を撮影した。

寿都町の漁村景観や都市景観には、海岸の強風に備えた「コールタールで真黒な壁の家」や「防風板塀」、「路地の突当りの寺院」などで特色ある景観がある。

また、寿都町の農業は、砂地の農業に特色があり、農業景観は、作付作物や防風保安林などの環境対策景観との関係で特色が生まれる。

これらの景観は、地域の人が気付いていない貴重で有益な景観であることから、もう一度寿都町の人々の協力を得て景観の発掘調査を行ない、景観の特色と価値を共有し、活性化のための利用を協議する。

★具体的な行動計画

(1)「景観マップの作成」

特色ある寿都町の景観ポイントを景観マップに落とし、利用策や改善策を導き出す。

(2)「景観面からの作物の見直し作業」

砂地農業の作付作物と景観との関係や、防風保安林の景観などから、寿都町として特色ある農業景観と農作物の見直しのための改善策を、町民の人達の協力を得て実施する。

(3)「景観面を配慮した実験農園の実施」

寿都町の特色ある砂地作物と景観との関係を検討するため、実際に景観を考慮した農作物を栽培した実験農園を、町民の人達の協力を得て行なってみたい。

５．寿都町民との接点の持ち方

美しい海づくり研究は、我々研究会メンバーと寿都町の行政、町民有志の協力の下で成り立っている。

また、我々の研究成果である提案は、寿都町の行政・町民有志が取捨選択して行うものである。

このためには、研究会メンバーと寿都町の行政、町民有志による、ワークショップやブレーン「オピニオンリーダー」ストーミングを実施し、我々の提案の理解熟度の深化を求めることとしたい。

寿都ファンクラブ
ー　平成16年度活動報告、平成17年度活動計画　ー

2005.3.4
文責：柴田　登

1. 平成16年度活動総括
   1) 出前授業
      ① 開催日時：平成16年8月6日(金)～8日(日)
      ② 開催主体：寿都町教育委員会（小中高生対象のサバイバルキャンプ）
      ③ 開催場所：旧湯別小学校、朱太川（黒松内町）、浜中海岸林、浜中海岸
      寿都町総合文化センターウィズコム
      ④ 協力関係：北海道技術士センター/リージョナルステート研究会自然科学教育研究分科会
      北海道技術士センター/地域産業研究会地域活性化分科会（寿都ファンクラブ）
      ⑤ 参加人員：小学生4名、中学生15名、高校生1名　計20名
      寿都町教育委員会6名
      技術士9名（内、川G1名、山G1名、ファンC3名）、技術士補2名　計11名
      ⑥ テ ー マ ：寿都の自然の豊かさを知ろう
      寿都の市街地の変化（航空写真）、朱太川の自然、浜中海岸林の自然
      砂の性質、海水と真水の違い、山と川と地形、砂と鉱物標本
      （内容を欲張りすぎた印象）
      ⑦ 報 告 書 ：テキスト、実施内容、反省と感想などの内容で現在編集中

   2) イベント協力
      かき祭り、おさかな市、水産加工協即売会、リンケージアップ等で会員への案内と購買協力

   3) 町外との交流方策の検討
      今年度は特に活動実績無し

2. 平成17年度活動計画
   1) 出前授業
      基本的に平成16年度同様の体制で実施する方向（寿都町教委の要望）
      テーマを決め、メニューを絞る（遊びから派生するような、好奇心を誘うアイディアが望ましい）

   2) イベント協力
      会員に積極的に広報し、札幌開催のイベントは町の関係者も含めて定例会の一部とする考えも

   3) インターネットによる地域情報の発信
      具体的方策と可能性の検討

   4) 寿都ファンクラブの組織化
      他の自治体の交流事例（祭りやイベント以外）の情報収集

   5) 定例会でのテーマ討論会
      「寿都の海を美しく」以外のテーマで地域活性化に関連する勉強会の開催
      例：「防災と地域活性化を考える」